

平成 22 年 6 月 8 日現在

研究種目：基盤研究（c）
研究期間： 2007 ～ 2009
課題番号：19520694
研究課題名（和文） タイにおけるムスリム・コミュニティの「改宗」をめぐる人類学的比較研究
研究課題名（英文） Comparative Anthropological Research on 'Conversion' in Muslim Communities of Thailand
研究代表者
西井 涼子 （NISHII RYOKO）
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授
研究者番号：20262214

研究成果の概要(和文)：

本研究は、調査をすすめる中で進行した、南タイでおこっている暴力事件によるムスリムと仏教徒関係の変化、なかでも南タイの東海岸と西海岸の顔の見える村落レベルのムスリムと仏教徒の関係の変化について焦点をあてて研究をすすめた。ムスリムと仏教徒関係における最もラディカルな局面は、自己と他者の関係が入れ替わる「改宗」にみることができる。改宗の実態を通してみえてくる、ミクロのムスリム―仏教徒関係をマクロの政治状況を考慮にいれつつ明らかにすることを試みた。

研究成果の概要（英文）：

This Research has focused on the transition of Muslim-Buddhist relationships, especially face-to-face relationships in the village, comparing the situation on the eastern coast and the western coast of southern Thailand since the outbreak of violence in 2004. The most radical aspect of Muslim-Buddhist relationships can be analyzed through 'conversion' between Islam and Buddhism which represents a strategy of switching the self for the other. This research will shed light on the micro process of relationships within the context of the macro politico-economic situation.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1400,000	420,000	1820,000
2008年度	1000,000	300,000	1300,000
2009年度	900,000	270,000	1170,000
年度			
年度			
総計	3300,000	990,000	4290,000

研究分野:社会科学

科研費の分科・細目:文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード:ムスリム、ムスリム―仏教徒関係、南タイ、暴力事件、改宗

1. 研究開始当初の背景

これまでに、タイにおけるイスラームの研究は、1960年代後半から注目を集めて南タイ東海岸のムスリムの分離独立運動に関わる政治経済的研究がほとんどであった。さらに南タイ東海岸のイスラーム・コミュニティにおける2001年1月を皮切りに再び勃発しているイスラーム運動に関連するといわれる暴力的な事件の連鎖により、グローバルなイスラーム主義運動とのかかわりなどやはり政治経済的な観点からの研究が見られるようになった。しかし、実際のローカルな人々の生活に根ざした宗教実践のあり方についての報告は、わずかである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、イスラーム・コミュニティにおける「改宗」に焦点をあてることによって、タイ国内のそれぞれの歴史・社会的状況の異なるタイ各地の比較を通して、イスラームの教義から本質的に捉えられがちなイスラーム・コミュニティの動態を明らかにすることである。

3. 研究の方法

本研究の方法論は、個々人の日常的な宗教経験や実践に、人々の生活のうちから接近する人類学的アプローチをとる。それにより、イスラームやムスリムという名前によって一くりにされ、一枚岩にみられがちな宗教現象の多様な実践的リアリティを明らかにすることができる。さらに、本来人類学的手法には内包されている比較という視点をタイ国内の異なるコミュニティの分析に明示的に取り入れることで、同じタイ国内のムスリム・コミュニティ間の差異化の様態も明らかにする。

4. 研究成果

本研究は、調査をすすめる中で進行した、南タイでおこっている暴力事件によるムスリムと仏教徒関係の変化、なかでも南タイの東海岸と西海岸の顔の見える村落レベルのムスリムと仏教徒の関係の変化について焦点をあてて研究をすすめることとなった。南タイのマレーシアとの国境地域は、仏教徒が大半を占めるタイにおいてムスリムがマジョリティであるという特徴があるが、その中でも東海岸と西海岸ではムスリムをめぐる政治的状況が歴史的に異なっている。東海岸は、マレー語を母語とするムスリムであるのに対し、西海岸では仏教徒と同じ南タイ方言のタイ語を話すムスリムが大半を占める。東海岸と西海岸では、タイ政府に対する政治的態度も異なっている。東海岸がムスリムの分離独立運動の中心であったのに対し、西海岸のムスリムは政治的に大きな問題になったことがなく、タイ政府によっ

てもムスリムである模範的なタイ国民であるとみなされてきた。そうした中で、2004年以降の「南タイ騒乱」も東海岸でのみ起こっている。

よって、本研究では東海岸と西海岸では何が異なっているのかを明らかにすることに焦点を当てた。

現在に至る東海岸との違いの一つの大きな要因は、パタニが政治的中心であり、イスラーム教育の中心であったのに対し、サトゥーンは政治的の辺境であったこと、また政府のタイ語による学校がはじめての教育を受ける機会であり、現地のムスリム・エリートによってもそうしたタイ政府の政策への反発がなかったことが挙げられる。

また、東海岸では、マレーシアとの行き来が容易な地勢的状况があり、二重国籍をもつマレーシアを同じマレー語を話すことのできるムスリムも多いのに対し、サトゥーンでは日常的な行き来は難しく、二重国籍をもつムスリムも少ないといった違いもある。東海岸においては、西海岸における調査村の状況のように、ムスリムと仏教徒が通婚するというケースはまれである。それゆえ、ムスリム―仏教徒関係も自己と他者をめぐる既定に直接関わるというよりも、より政治的な動きとの関連での報告がなされることが多い。

現在、東海岸では紛争状態にあり、西海岸では平穏な状態が続いているという現実の違いがある。しかし、結論として本研究でいえることは、東海岸における、タイとマレーの間を柔軟に交渉しつつよりより生活をめざして日常を生きる人々が、西海岸の仏教徒と同じ村落で共住するムスリムとそれほどかけ離れているわけではないということである。少なくとも、東海岸と西海岸の現実の比較からは、タイ国内の政治的な要因やグローバルなイスラーム化の動きのなかで、人々は生きる場においてそれぞれ柔軟に現実に対処しようとしている点においては共通している。そうした人々の日々の営みを等閑視し、外から宗教やエスニシティといった枠組みによって一枚岩として固定的に捉えていく視線を疑問視することなく保持することこそが、そこに生きる人々の生活を外から圧殺していくことにつながるという提言をもって研究の成果としたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

2009『『他者』をめぐる考察―南タイにおけるムスリムと仏教徒の関係から』『現代宗教 2009 変革期のアジアと宗教』秋山書店:183-206. 西井涼子

[学会発表] (計5件)

2008 “Is a new community emerging? The futurity of the Da’wa movement in a west coast Southern Thai village”. In the panel ‘Futurity and Practice in Emerging and Transforming Communities’, the 10th International Conference on Thai Studies, Thaikhadi Institute, Thammasat University, January 9-11, 2008.

2008「新しいコミュニティの可能性:後期モダニティにおける南タイのダワ運動」国立民族学博物館共同研究会「東アジア・東南アジアにおけるコミュニティの政治人類学」 7.5

2008 “Ancestral memory in Southern Thailand: an anthropological approach to the social memory of Muslim-Buddhist coresidence”, *The Asia-Europe Workshop 2008, Social Memory and its Impact on Global Political Communication*, Department of Political Science, College of Public Administration, Zhejiang University, 8-9 December.

2009 “Consideration on Otherness: Muslim-Buddhist Relationships in Southern Thailand”, *Buddhism Islam: Encounters, Histories, Dialogue and Representation*, McGill University, 29-30 May.

2009「『死』という出来事に感応する身体ー時間・空間・フィールドワーク」第10回「社会空間論の再検討ー時間的視座から」共同研究会、7.25.

[図書] (計1件)

2010「日常性の中の「他者」化ー南タイの暴力事件におけるムスリムー仏教徒関係から」『ユーラシア宗教比較』勉誠出版(近刊)

[その他]

[公開講座]

2008「人類学者とフィールドの awkward な関係ー南タイでムスリムと仏教徒と暮らして」2008 年度中東・イスラーム教育セミナー講演、AA研 9.18

2008「東南アジアのムスリムと仏教徒」第2回国際教養セミナー(大学セミナーハウス)、八王子セミナーハウス、10.4-5.

2009「タイにおけるムスリムの現状」東南アジアのイスラーム(ISEA)プロジェクト第4回公開セミナー、岩手県立大学アイーナキャンパス、7.4.

2009「イスラームとの共生ータイ南部の仏教徒と

ムスリム」品川シルバー大学いきいきコース「イスラーム世界との対話ー共生への扉をひらく」品川区立中小企業センター11.19.

6. 研究組織

(1)研究代表者

西井 涼子 (NISHII RYOKO)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号:20262214